



慶應大阪シティキャンパス 2024年度



ガクモンノススメ

「学問のすすめ」150周年プロジェクト



慶應義塾 福澤研究センター講座

西洋文明の受容と 日本の近代

Acceptance of
Western Civilization &
Modern Japan

明治維新において西洋文明をいかに受容していくかは、
福澤諭吉や門下生たちにとって、大きな課題でした。
今回の講座では、翻訳や教育、法律などさまざまな観点から、
近代日本における西洋文明の受容について考えます。

第1回 2024.11.16(土)
文明開化の倫理・道徳教育
～ウェーランドの教科書と阿部泰蔵の翻訳～
Millán Martín, Alberto (ミヤン・マルティン) 慶應義塾大学経済学部准教授

第2回 2024.12.14(土)
日本政治思想史における「洋学」と福澤諭吉
姜 兌琬 (カン・テウワン) 慶應義塾大学非常勤講師

第3回 2025.1.18(土)
西洋法文化の受容と福澤諭吉
加藤 学陽 慶應義塾福澤研究センター調査員

第4回 2025.2.15(土)
明治の初等教育と福澤諭吉
—世界地理教育を中心に—
太田 昭子 慶應義塾大学名誉教授

第5回 2025.3.15(土)
小幡篤次郎の翻訳活動と「西洋」の受容
西澤 直子 慶應義塾福澤研究センター教授

【開催方法】オンライン (Zoom) および KOCC 会場
(会場定員50名程度)

講演当日は、講演者をご参加者様のご質問にお答えします。

【開催時間】14:00～16:00

【申込方法・締切】Web申込、各回開催日直前の火曜日まで

【受講料】1講演 各1,500円(税込み)

詳細・申込はこちらから
(慶應大阪シティキャンパスホームページ)



※受講登録者向けに、見逃し配信(期間限定)を予定しています。

【会場・お問い合わせ】慶應大阪シティキャンパス (KOCC)

〒530-0011 大阪市北区大深町3番1号 グランフロント大阪 ナレッジキャピタル 北館タワーC 10階

E-mail keiokorc@info.keio.ac.jp TEL 06-6359-5547 <https://www.korc.keio.ac.jp/>

慶應義塾大学主催



第1回 2024.11.16(土)

文明開化の倫理・道德教育

～ウェーランドの教科書と阿部泰蔵の翻訳～

Millán Martín, Alberto (ミラン・マルティン・アルベルト) 慶應義塾大学経済学部准教授

明治5年に日本では最初となる近代的な教育制度「学制」が誕生しました。文明開化の影響下で7年間しか実施されませんでしたが、全ての子供たちが通える学校が全国に普及し、欧米諸国から多くの教科書が輸入されたことが特徴的です。そのなかで西洋の倫理や道德教育を教えるために米国のウェーランド牧師の書物が文部省によって日本語に翻訳されましたが、そもそもキリスト教に基づく内容を、日本の小学生に紹介するために訳者の阿部泰蔵はどのように工夫したのでしょうか。原書と3種類の訳書を比較しながらその真相に迫ってみます。

第2回 2024.12.14(土)

日本政治思想史における「洋学」と福澤諭吉

姜 兌琬 (かん てゆん) 慶應義塾大学非常勤講師

本講演では、近代日本政治思想史における「洋学」の意味と、福澤諭吉が近代日本に「洋学者」として及ぼした影響について紹介します。具体的には、近世(江戸時代)から近代(明治時代)を対象に、「儒学」「古学」「国学」といった政治思想の歴史的変遷を概括し、その中で「洋学」はどのような位置づけにあったのかを眺めます。その上で、福澤諭吉の「洋学者」としての思想的特徴について、同時代の他の洋学者との比較を交えながら、紹介します。

第3回 2025.1.18(土)

西洋法文化の受容と福澤諭吉

加藤 学陽 慶應義塾福澤研究センター調査員

明治日本が近代化という目標を達成するためには、「西洋法の継受」が不可欠でありました。政府は各種法典編纂を進めるとともに、司法省法学校

などを設立し法を運用する法律家の養成にも力を入れてゆくことになります。一方、福澤諭吉は法律家ではありませんでしたが、近代期の日本に法的な考え方の重要性を広めようとした知識人の一人でもあります。本講座では福澤諭吉の著作や演説などを中心に彼の西洋法理解を探り、また慶應義塾における法教育のありかたについても考えます。

第4回 2025.2.15(土)

明治の初等教育と福澤諭吉

—世界地理教育を中心に—

太田 昭子 慶應義塾大学名誉教授

福澤諭吉が欧米諸国を訪れた1860年代は、幕末維新期の日本はもとより、欧米諸国にとっても大きな転換期でした。そのような時期に海外で収集した情報を、福澤はその後の執筆や教育活動においてどのように活かしたのか。本講演では、民の啓蒙—わけでも初等教育における地理教育に注目します。地理教育を通して、福澤がどのような世界認識・国際感覚の形成を図ったのかなど、『世界国尽』(1869年)の紹介を通して、いくつかの視点を提供したいと考えています。

第5回 2025.3.15(土)

小幡篤次郎の翻訳活動と「西洋」の受容

西澤 直子 慶應義塾福澤研究センター教授

小幡篤次郎は、明治期には福澤諭吉や慶應義塾といえば、誰もがすぐにその名前を連想するような人物でした。ただ伝記や著作集が編纂されず、そのため『学問のすゝめ』初編の共著者でありながら、現在ではあまり顧みられることがありません。しかし彼は英語の学習を始めて、わずか2年で幕府の教育機関で教えるようになり、翻訳した書物は多くの読者を得ました。彼が紹介しようと考えた西洋文明は何であったのかを、その翻訳の姿勢と共に考えてみます。